

逗子の景観まちづくり

瓦版

第六号

平成二十五年二月十四日

発行 景観フォトコンテスト実行委員会

編集 逗子市環境都市部まちづくり課

協力 NPO法人逗子の文化をつなぎ広め深める会

募集 逗子の景観スケッチや六百字以内の逗子の

景観に関するコラム等を募集しています。

二四九・八六八六

逗子市逗子五丁目二番十六号

「逗子市まちづくり課 瓦版係」

電話 〇四六・八七三・一一一一

ファックス 〇四六・八七三・四五二〇

machi@city.zushi.kanagawa.jp

「生活者のおいに満ちた小坪漁港」

徳富蘆花の「自然と人生」で語られた逗子は、平地に田園風景が広がり海岸には漁師が生活の糧とした漁船と網があった。それはとてつもなく古の事象に思えるが、実は僅か百十年前の風物に過ぎない。

私たちが東京のお台場に行つて寒々とした虚脱感に襲われるのは、人々の営みが醸し出すにおいが途絶しているからである。

それとは逆に逗子に帰って安らぎと落ち着きを取り戻すのは、逗子が低い稜線の山並みや相模湾の波濤に囲まれた自然に恵まれているだけではない。徳富蘆花が描いた時代からその地で生産し生き続けた人々の体臭がたとえ微かではあってもそこはかとなくにおってくるからである。

その象徴としてあるのが小坪の漁港である。逗子海岸という時すぐに思い浮かべる海水浴やサーフィンの姿はかけらも窺えない。あるのはやがて出航しようとする漁船と低い屋並みにひっそり過ごしているだろう人々を彷彿させる窓だけである。

これこそが古くから受け継いできた逗子の貴重な風景遺産に他ならない。

この絵の作者は小坪に来て、だれもが絵柄として組み込みそうな眼前に立ち並ぶ逗子マリナーには目もくれなかった。

なぜだろう、それは視界を遮る建造物が時として人間精神の尊厳を冒すのを自覚していたからである。

逗子はまだ豊潤な風物に満ちている。この絵を描くことで、彼はそう言いたかったに違いない。

絵 「小坪漁港」 坂田融

文 喜多哲正

アンダー18 返子ステキ発見！ 景観フォトコンテスト

高校生以下を対象にしたフォトコンテスト

大好きな風景をとって応募しよう！

応募して
ゲット

作品を応募して展示・投票会にくるとステキな参加賞 ゼット★
さらに

人気作品にはおもちゃや文具、遊園地や水族館の入場券に交換できる
こども商品券 金賞5千円 銀賞3千円 銅賞1千円 ゼット★

2月13日現在

応募作品



小学3年生の作品



小学1年生の作品



中学1年生の作品



高校2年生の作品

返子ステキ発見！景観フォトコンテスト スポンサー紹介

小坪漁業協同組合



小坪の天然ワカメ

2月下旬（予定）から小坪漁港で天然わかめの
収穫が始まります。

天気の良い日、漁港でワカメを干しています。

購入する際は直接漁師に声を掛けてください。

ゆでる前の時間帯（10：00頃まで）なら
生ワカメも購入できます。

電話：0461-24-3211

